

ようやく春真つただ中といえるような陽が、林の枝々に差し込むようになり、たおやかな風が髪をすく穏やかな5月の連休初日、原村の標高1200mほどの桜公園では、お花見会が行われていた。

本州一おそいお花見会 in 原村

## やわらかな春の風に ほころぶ山桜



子育てなら原村  
老後だって原村  
やっぱ原村

# Rural Relocation Vol.35

主催は、今回もまた地元建設会社宮坂建設とその協力会、及び移住交流友の会『やまほうしの風』。本州一遅いお花見会として同社のOB顧客に声をかけ開催された。

毎年5月の連休最終日に行っているが今年5月3日。初日だったせいか例年より多い申し込み数だった。事前申込者はキャンセルもなく全員が参加。当日申し込み者とスタッフを合わせ総勢100人が楽しんだ。4月になり都会に桜が舞う頃になると「毎年参加させてもらっているんですが今年はやらないんですか？」などの問い合わせが多いという。皆、原村の日本一遅いお花見会をとっても楽しみにしている。主催する側の事前準備、特に天候の心配は大変だが、それでも続けてこられたのはそんな声もあるからだろう。天候といえば、去年は土砂降りの雨になってしまい隣の室内ゲートボール場を借りての開催だったが、今年朝の朝の空を見てホッと一安心。素晴らしい晴天に恵まれ、寒さもなく真つ青な空の下、桜吹雪と共に盛り上がった。

今年で6回目になるだろうか。この会は山菜の天ぷら、焼き肉、焼きそば、おにぎり、いなり寿司、豚汁、フルーツ、漬け物。そして、ビール、日本酒、焼酎、酎ハイ、ノンアルコールにジュース類など飲み物も種類豊富に用意された。

女性スタッフが天ぷら・豚汁係、男性スタッフが焼き肉・焼きそば係。参加者はジュッフェ形式で好きなものを好きなだけとることができる。参加費は大人五百円。揚げたて、焼きたてのお料理でお腹いっぱいになり客人同士の話も弾んだ。現在、建築検討中のお客様から30年も前に別荘を建築された方まで揃い、皆原村暮らしの懐かしい話や最近の原村事情に桜以上の花を咲かせていた。

この桜公園は、今から25年ほど前、同会社の会長が隣りのみみの木荘に宿泊したお客様から「宿泊先の部屋から八ヶ岳も何も見えなくて唐松だけで寂しかった」と聞いた話から、もう少し明るく開けた眺望があつたらと原村内で集まった真和会メンバーとカラ松林を切り開き、桜を植え、毎年何回も手入れをし造り上げてきた公園だ。山桜のため咲くのが遅く、5月に入っても花見が楽しめる。自分の別荘から歩いてくる人も多く、中には杖を突き支えられながらの姿も見られた。別荘所有者も代替わりを迎え、息長くお施主と工務店のつきあいが続いている。この建設会社の原村での別荘顧客の多さに感心する。また会の中には、家一軒建つまでに関係する専門業者の職人さんらも集まり、家づくりや後々のメンテナンスなどの質問を受ける様子も見られた。こうした皆のふれあいの場は大変貴重だと痛感した。

